

## 城崎温泉街で

### 「そぞろ歩き」をより安全に

9月11日から15日までの5日間、城崎温泉街の湯の里通りの一部で、より安全な歩行空間を確保するための社会実験を行いました。

同温泉街では浴衣姿での「そぞろ歩き」が人気ですが、車と歩行者の距離が近く、危険性が指摘されています。その一因と考えられている路肩での駐車抑制するために、同区間の旅館や店舗、配送業者に荷物の運搬時間などを調整し「そぞろ歩き」のピーク時間である午後2時から6時まで、駐車車を控えるよう協力を依頼しました。実験前と期間中の状況を検証し、対策を検討します。

《問合せ》建設課 ☎21-9007



▲一の湯付近から御所の湯付近までの交通状況を観察

## 「女性が働きたい職場」を

### 演劇で学ぶ

9月26・27日、豊岡稽古堂で、女性が働きたい職場づくりを目指す演劇ワークショップを開催し、市内事業所の管理職ら24人が参加しました。

参加者は、劇団青年団の俳優と共に、遊園地の採用面接を演技。性別・国籍が異なる人、闘病・育児中など応募者の役割を演じることで、自己理解や他者理解を深めるきっかけとなりました。市では、性別にかかわらず誰もが働きがいがあり、働きやすいと感じる事業所を増やす取組みを進めます。

《問合せ》ワークイノベーション推進室 ☎21-9004



▲採用面接を演じる参加者。役柄を意識して質問に回答

# 市政

## ニュース

### 主な市政の動き

#### 〔9月〕

19日・豊岡市最高齢者(夫婦)

祝福訪問

21日・ニューヨーク「日本食レストランエキスポ」に出展

けたシンポジウム

23日・新文化会館の整備に向けたシンポジウム

25日・ワークショップ「子育てしながら働くために」

〔10月〕

1日・幼児教育・保育の無償化スタート

豊岡市プレミアム付商品

#### 〔10月〕

1日・幼児教育・保育の無償化スタート

豊岡市プレミアム付商品

9日・第13回豊岡市・京丹後市合同会議

10日・公共施設のあり方を考える市民懇談会(日高)



券を販売(2020年2月28日)

本市初の豊岡市地域再生協働員(県版地域おこし協力隊)が活動開始

まちのサイドプレイスを開設

8日・EGAKUワークショップ編「働く上で大切にしていること」

9日・第13回豊岡市・京丹後市合同会議

10日・公共施設のあり方を考える市民懇談会(日高)

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品

豊岡市プレミアム付商品



▲友善食農特展のオープニングセレモニー

## コウノトリ野生復帰を

### 台湾から世界に発信

10月1日から12月21日まで、国立台湾大学農業博物館で開催されている友善食農特展(主催・同博物館)に、コウノトリ野生復帰とその要であるコウノトリ育苗農法の取組みを出展しています。

環境にやさしい農業を考える特別展で、日本からの出展は本市のみ。本市の取組みをパネル展示等で紹介しています。

10月1日には、同大学であった国際シンポジウムで、中具市長が「コウノトリ野生復帰と農業」について講演し、その取組みを世界に発信しました。

《問合せ》コウノトリ共生課

☎21-9017

## 10月1日運用開始

### 防災行政無線のデジタル化

2016年度から設備を進めてきたデジタル防災行政無線の運用を、10月1日から開始しました。

デジタル防災行政無線の整備理由は①現在運用しているアナログ電波が22年11月末までしか使用できない②設備更新の時期にきているためです。全体事業費は、約13億円です。

20年12月までに、業者が市民の皆さんの自宅を訪問し、無償で戸別受信機を交換します。なお、この間は、アナログとデジタルのどちらの戸別受信機でも放送を聞くことができます。

《問合せ》防災課 ☎23-1111



▲デジタル化後初となる10月1日の定時放送の収録(本庁)

## 中具市長の徒然日記 ⑭

### 男性も育児休業を

9月、2人の男性職員に育児休業の辞令を渡しました。今年の4月から、市役所の男性職員に育児休業を取得するよう強く求めています。今回が2人目と3人目でした。

辞令には、「余計なお世話かもしれませんが、とりわけ以下の点にご留意ください」としてこんなことも書かれています。「妻は、家事・育児と忙しく自分のために時間を使うことが難しいのが実態です。日々の夫のいたわりと行いは、のちに妻の夫への愛情曲線の上昇度合いに大きく影響すると言われています。ぽーっとしてはいけません。育児はもちろんのこと、料理、洗濯、掃除なども妻と分かち合うと良いでしょう」

これ、専門家の調査結果です。妻の愛情の配分先は、子どもが生まれると子どもがトップになり、夫へのそれはガクッと下がります。が、その後徐々に回復していく人とそうでない人に二極化するのだ

そうです。「年配者はどうしたらいい？」ですか？ せめて食べ終わったら自分の食器類は自分で流しまで。

辞令はさらに、「家事・育児への意欲はあっても何をしたいか分からず、やっても妻の意に沿わず妻が不機嫌になる、ということが世の中ではしばしばあります」と続きます。茶わんを洗っても洗い残しがくっついていたり、カッブの置き場が違っていたり：「どうしていいか分からない」と愚痴をこぼし合う夫たちがいるのだと聞きました。

「コミュニケーション不足です。そんなときは、夫にやってほしいことを妻に具体的に書いてもらおうと良いかもしれません」。

辞令は、最後にこう締めくくっています。「妻と夫、それぞれの思いを率直に話し、互いを理解し、いたわり合いながら子育てに取り組んでいけるよう、職場の同僚として切に願っています」

市に賛同して、市内企業の若い社長が最近育児休業を取られたそうです。グッドです。